

# 長野県茅野市のご紹介

- コワーキングスペース  
「ワークラボハケ岳」について
- 新しい地域公共交通について
- 都市構造可視化の取り組みについて

# 茅野市の概要



- 東京・名古屋からは 2~2.5時間
- 電車でも車でも、程よいアクセス



- 人口 55,885人(R4.8.1)
- 面積 266.6 km<sup>2</sup>
- ※諏訪圏6市町村(茅野市・諏訪市・岡谷市・下諏訪町・富士見町・原村)の中で最も人口が多いまち

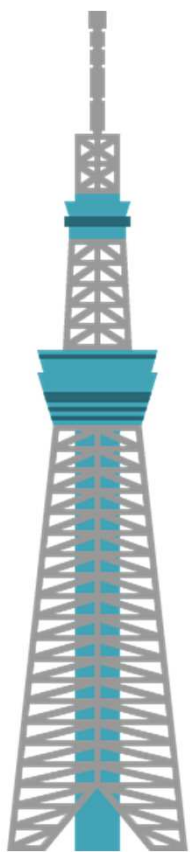
# 茅野市の標高

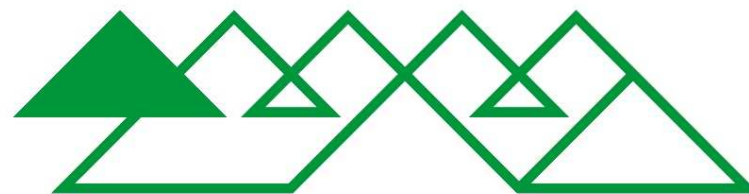
- 市街地は 標高 約770~1.200m  
(最高地点 赤岳 2.899m)
- 年間日照時間は全国でもトップクラス  
(1971年から2000年までの平均2.126時間)



茅野市役所  
801.6m

スカイツリー  
634m





WORK LAB YATSUGATAKE

# 働く実験室

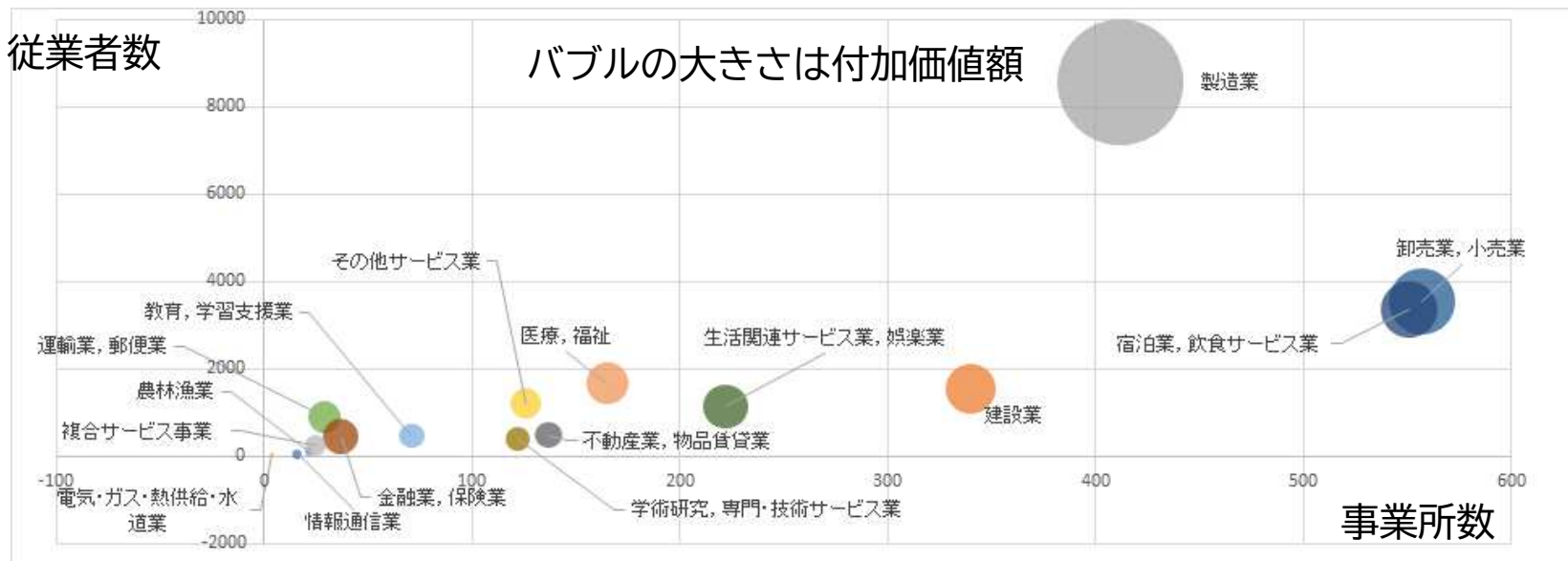
茅野でより豊かなワークライフを実現するための  
コワーキングスペース

茅野市コワーキングスペース「ワークラボハヶ岳」について

茅野市 産業経済部 商工課

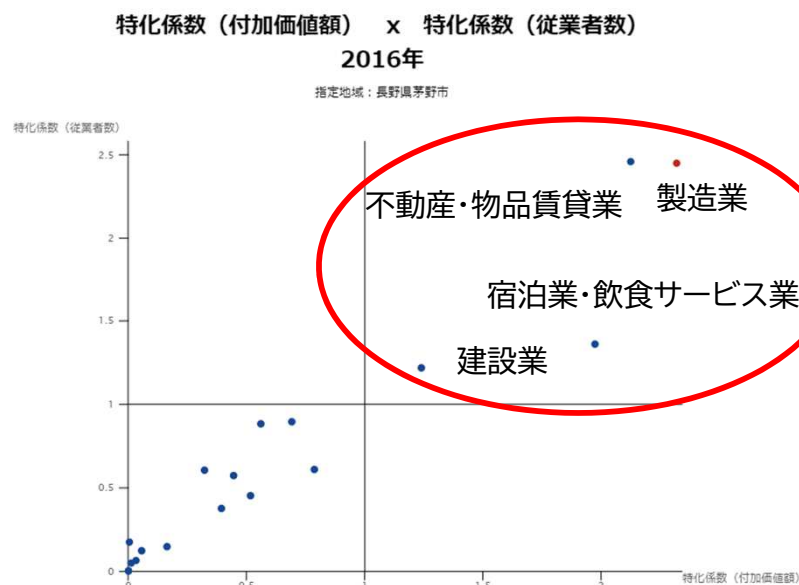
# 茅野市の産業構造

## 【産業ごとの事業所数、従事者数、付加価値額】



出典:平成28年経済センサス

## 【茅野市が強み(稼ぐ力)を有する産業集積群】



茅野市が付加価値額、従業者数で全国的に強みを有する産業集積群

出典:RESAS 総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

- 茅野市の人口減少・少子高齢化対策に資する取組として「茅野市地域創生総合戦略(2015年10月)」の中核に位置付けられ、茅野市が施設整備を行い、指定管理者制度による民間が運営するコワーキングスペースです。
- 「第2次茅野市地域創生総合戦略(2020年4月)」では、「若者に選ばれるまちの実現」に向けて、コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出が、市の横断的施策に位置付けられています。
- ワークラボ八ヶ岳は、市内外の様々な人々が豊かなワークライフの実現を目指し、様々な取組を試せる場所＝『働く実験室』のコンセプトのもと、ヒト・モノ・コト・情報をつなぐ起業・創業・就業のワンストップサポート拠点として、若者の地元定着や移住・定住促進、地元企業の活性化、女性の社会進出促進等の事業を民間活力の創意工夫により展開している。

## 【施設概要】

- ・床面積:約584㎡(ベルビア2F5,250㎡のうち)
- ・施設内容:①オフィススペース(10区画)、②ブース(6区画)、③デスクシェアスペース(22席)、④ミーティングルーム(会議室3、キッチン1)、⑤フリーラウンジ、⑥その他(コミュニティキッチン、電話ブース、コピー、ロッカー等、法人登記可能)
- ・営業時間:午前10時～午後8時30分  
※月極会員は24時間入退室可能
- ・休館日:第3木曜日及び年末年始(12/29～1/3)



JR茅野駅直結！駅前商業施設ベルビア2F5

# 多機能スペースをコワーキングスペースに改修

パソコン閲覧、プリント工房、ステージ貸出などの機能があった場所と催事場のスペースをリノベーション



デスクシェアスペース22席



オフィススペース10区画



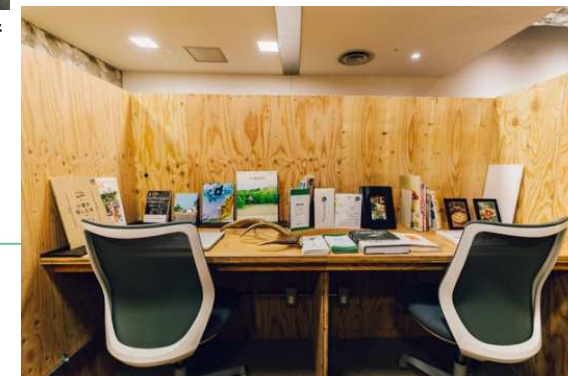
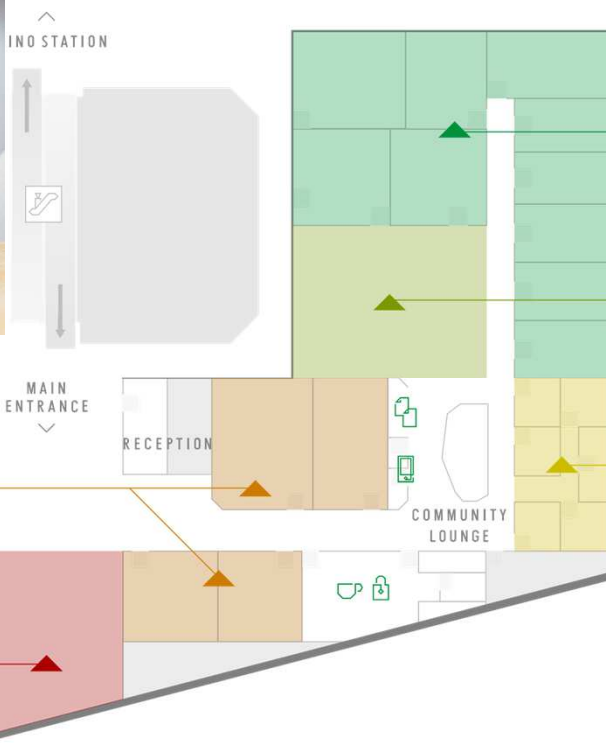
エントランス



ミーティングルーム3室



フリーラウンジ



ワークスペース デスクシェア  
WORK SPACE DESK SHARE

ブース6区画



キッチンスタジオ

# (参考)コワーキングスペース整備事業費の実績

## 【整備事業費】

(基礎調査)

(平成27年度)

○基礎調査、基本構想策定:6,984千円

(うち、地域住民等緊急支援交付金(地方創生先行型)充当:5,500千円)

(本体工事)

(平成29年度(平成28年度繰越含む))

○整備推進事業(基本計画策定等):6,890千円

○開設準備事業:27,969千円

(うち、地方創生推進交付金充当:16,823千円)

○設計、工事監理委託:9,283千円

○リノベーション工事:89,737千円

○備品整備(消耗品含む):9,076千円

(うち、地方創生拠点整備交付金充当:40,556千円)



# (参考)コワーキングスペース管理運営の実績

## 【管理運営】

### 《第1期指定管理期間》

○指定管理者:ワークラボハケ岳運営チーム ((株)キャンプサイト、森ビル(株)、(株)イマージ)

○指定管理期間:平成30年3月～令和4年3月

○指定管理料:H29 3,365千円 H30 41,500千円 R1 38,491千円 R2・3 21,389千円

※H29からR1まで、地方創生推進交付金対象事業として利用促進事業等を実施

### ○実績(主要KPI等)

	目標	R3実績
ワークラボハケ岳売上額	8200千円	9824千円
オフィススペース等稼働率	16スペース(100%稼働)	16スペース
新規創業者数	29人	31人

### 《第2期指定管理期間》

○指定管理者:一般社団法人まちライブラリー(大阪府)

○指定管理期間:令和4年4月～令和9年3月

○指定管理料(予定):R4 22,440千円、R5・6 19,800千円 R7・8 18,480千円

# 第2期指定管理を行うにあたっての経営方針 ((一社)まちライブラリーの提案ポイント)

- ① コワーキング(協働して働く)の原点を実現する。
- ② 「ワークラボハケ岳」を茅野市における地域資産にする。
- ③ 社会的な活動への積極的な投資やコスト案分を試みる。
- ④ ビジネスユースのみならず、利用者層の多層化を図る。
- ⑤ 多様で専門性の高いスタッフづくりに励む。
- ⑥ 「まちライブラリー」を拡大し、市民広場を併設する。

# 「ワークラボハケ岳」の新たな挑戦～「コワーキング(協働)」の原点回帰

ワークラボハケ岳  
指定管理業務

視点を上げる

↓  
4つの軸を柱に  
事業展開

② エキスパート  
人材や組織との  
つながり

具体的な  
5つの取組

① 利用者間のつながり

内部の絆を強める

③ 学生等若者の参画

裾野を広げる

④ 市民との連携・交流

①ワークラボハケ岳利用者「ネットワーク・フォーラム」  
の実施

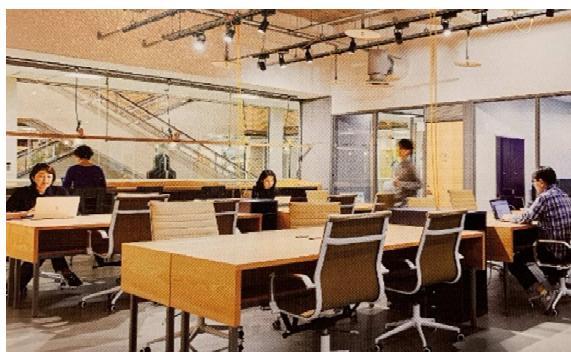
②ワークラボハケ岳「イノベーション倶楽部」の創設

③「U30・ワークラボインターンシップ」の創設

④「オープン・ワークラボハケ岳」の実施(年1回)

⑤市民広場「まちライブラリー」とのコラボレーション

## 「ワークラボハケ岳」・「まちライブラリー@My Book Station茅野駅」の相乗効果イメージ



まちライブラリー  
MACHI LIBRARY



自主事業として  
空きスペースを借上げ



バルビア2階のフロアマップ

設置目的達成を加速化

- ①市内外の企業・大学・団体等の知見・ネットワーク活用や相互交流促進
- ②新たな経済活動の創出・育成、地域経済の活性化(バルビア誘客促進含む)

本のある市民広場を創設。

- ①多様な市民が参集しやすい場を作る。誰でも原則無料で利用可能。
- ②本の寄贈、閲覧、貸出、勉強ができるだけでなく小規模な集まりやイベントも企画、実施していく予定。

# 様々な属性、年齢層を超えた交流企画を実施

8/5

飲みながら学べる大人のためのトークイベント Vol.4

## meetupラボ

### フードロス・レスキュー事業で

### 課題解決「菜のだ」!



ゲスト: 石原彩香さん (菜のだオーナー)

日時: 2022/8/5 (金) 18:30~20:00

場所: オンライン&リアル (ワークラボハケ岳)

申込み方法: QRコードを読み取りお申し込みください。

主催: ワークラボハケ岳 (指定管理者一般社団法人まちライブラリー)



- 市内高校の卒業生が起業したフードロス・レスキュー事業のトークイベント
- 公立諏訪東京理科大学生の有志「チノリカ」主催で、地域の子供たち向け自由研究イベント
- オムロン(株)イノベーション推進本部シニアアドバイザー、竹林一さんの「たった1人からはじめるイノベーション入門」講演 など

実験のあとはレポート作成の時間です



これで夏休みの宿題もばっちりですね

前回のイベント  
竹林さんより本を頂きました!

ワークラボハケ岳 イノベーション倶楽部

『たった1人からはじめる  
イノベーション入門』  
著者、竹林一さんと語り合う会



# JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流促進事業

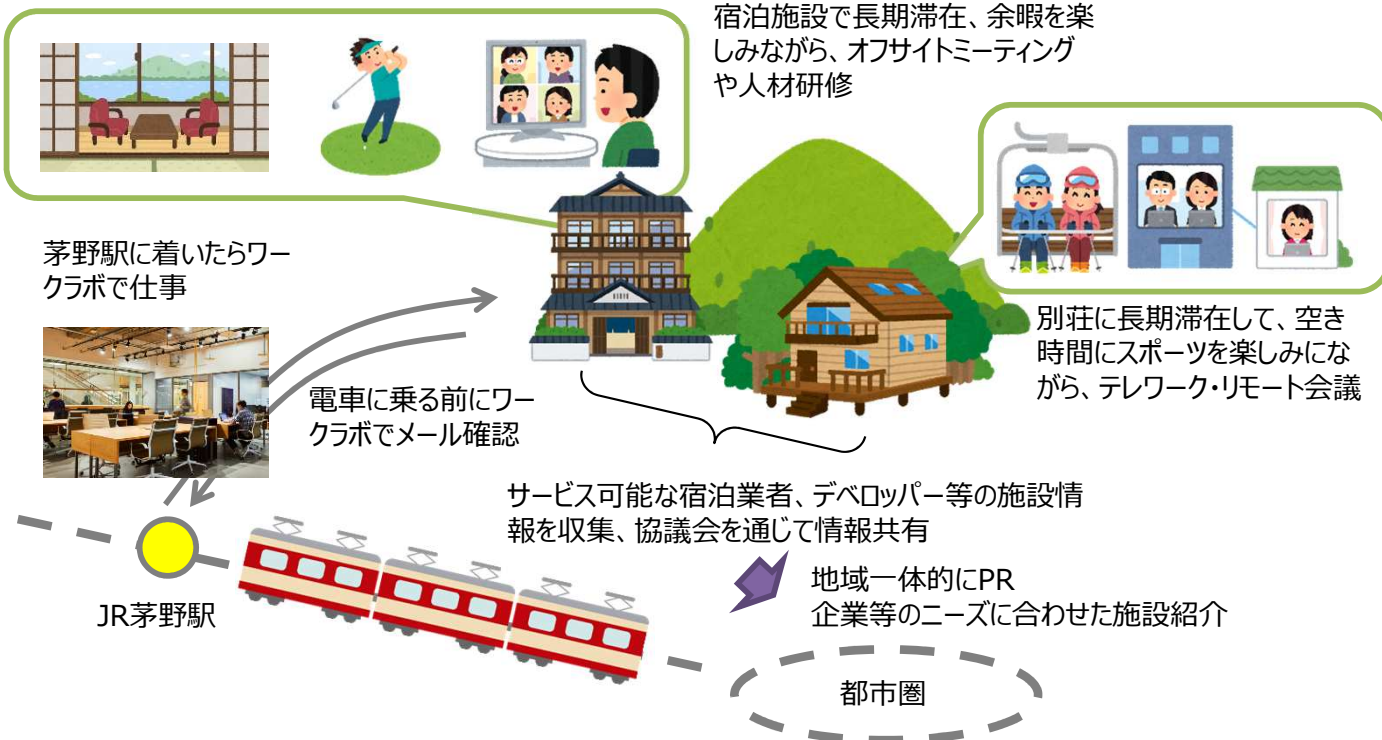
## ワーケーション・オフサイトミーティング推進事業

国の地方創生推進交付金を活用（令和2年度から3か年実施）

地域の賑わいや交流の輪を広げるために、都市部の人々が魅力を感じる茅野市の特性を活かしたワーケーション、オフサイトミーティング等、多様な働き方の広がりに対応する新たなサービスメニューを提供する市内事業者と連携し、茅野駅周辺と茅野市コワーキングスペースを核として、地域一体的に茅野市のワーケーションをPRすることで、都市部から市内に新たな人の流れを呼び込みます。

<取組内容> ※一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構に委託して実施、地域おこし協力隊制度を活用

- ・連携体(茅野市ワーケーション推進連絡会の設置・運営)
- ・連携体を中心としたSNSやPRチラシ、各種媒体との連携による情報発信、PRイベント等の実施
- ・ワーケーション・オフサイトミーティング体験ツアー等の旅行商品の造成、販売 など



Withコロナにおけるテレワーク・オンライン会議等のビジネス利用者層の獲得

一年間を通じた観光地の施設稼働率を高め、収益や経営の安定化

# 茅野市の新しい地域公共交通について



茅野市企画部地域創生課

## 1 地域住民の移動手段の確保

- ✓ 運転のできない学生・生徒や高齢者等の交通手段の確保
- ✓ 路線バス利用者が低調
- ✓ 高齢ドライバーによる事故等の懸念

## 2 まちのにぎわいの創出

- ✓ 外出機会の増加によるまちのにぎわいの創出

## 3 人の交流の活発化

- ✓ 観光旅客、ビジネスユース等の来訪者の移動の利便性や回遊性の向上により人の交流を活発化
- ✓ 別荘地・観光地のアクセスが脆弱

## 4 配車サービスが行き渡らない

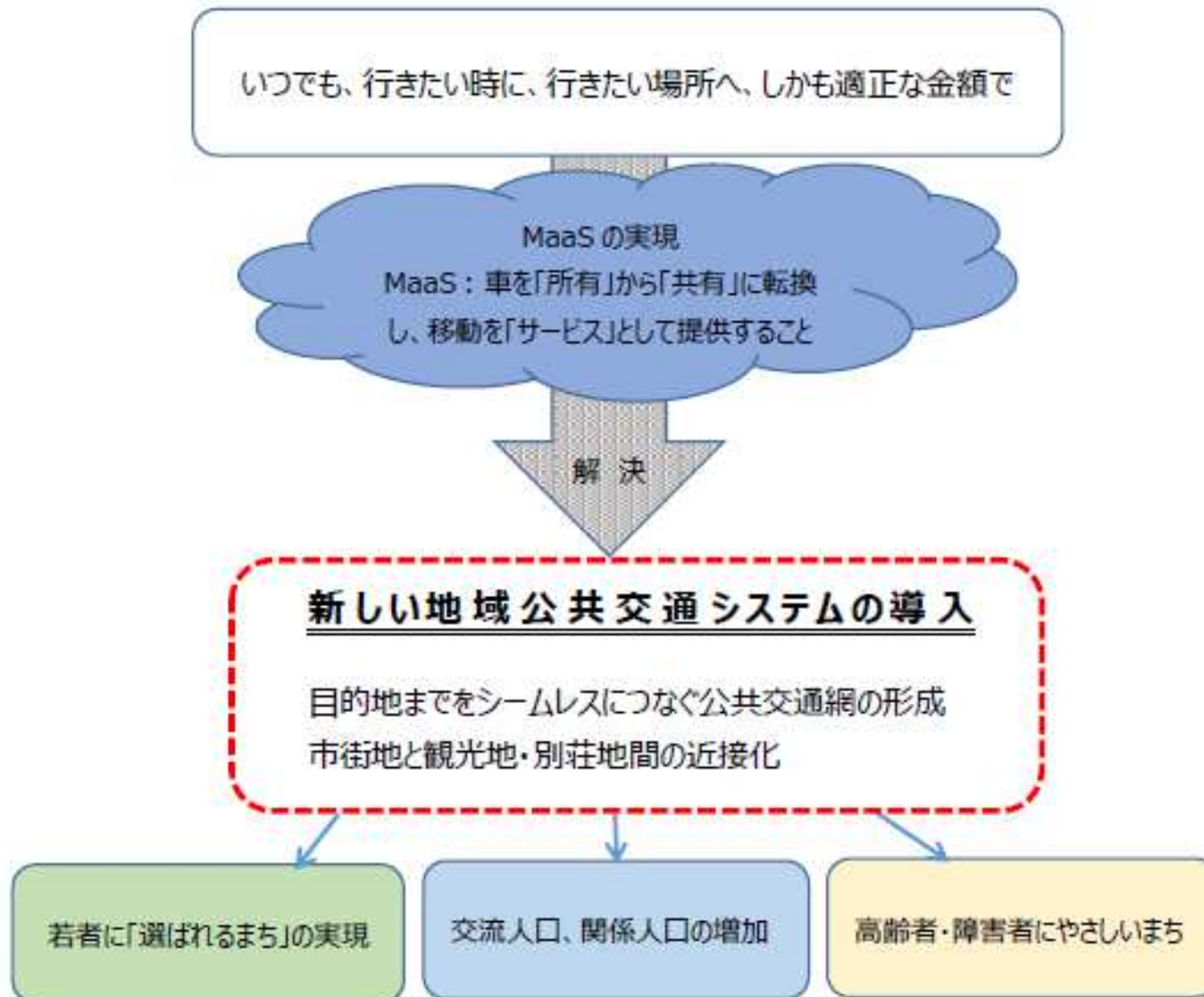
- ✓ コロナ禍による配車サービスの低下（タクシー運転手不足、高齢化等）
- ✓ 電車を利用する学生の家族による送迎のための茅野駅周辺の渋滞

## 5 環境に配慮した地域公共交通

- ✓ 地球温暖化対策
- ✓ 電車を利用する学生を送迎のための茅野駅周辺の渋滞の緩和



AIの導入&新しい地域公共交通





バスやタクシーなどの各交通サービスを切れ目なくつなぎ、経路検索や支払いが一括でできる交通体系であるMaaSの概念は、**茅野市が目指す新しい地域公共交通**である。MaaSは将来を見通した**持続可能な交通手段**であり、この**利便性の高い地域公共交通**を提供することにより、**市民の足の確保**はもとより、人流による**別荘地、観光地の活性化、ビジネスユース、まちの賑わいの創出**等につなげていく。



利便性の高い地域  
公共交通  
市民の足の確保

(別荘地、観光地  
の活性化、ビジネス  
ユース、まちの賑わ  
いの創出)

⇒多様な移動目的に対応した公共交通手段  
(路線バス、AI乗合オンデマンド)の確保

- ①朝夕の移動時間帯が集中する**通学通勤者**に対応した**路線バス**運行を継続
- ②日中の**生活移動**は、買い物・通院など多種多様な目的に対応したAI乗合**オンデマンド**を主とした交通体系に再編
- ③観光客等への需要と、広いエリアをカバーできる**観光路線**に移行

持続可能な  
交通手段

⇒段階的な取り組みによる検証・改善と  
収支に配慮した公共交通体系の維持

- 1 朝・夕の通学・通勤バスの運行拡大
  - ✓ 令和4年4月1日から3路線から5路線に拡大
- 2 「のらざあ」の運行開始
  - ✓ 令和4年8月22日から運行
- 3 市内の路線バス（13路線）の削減
  - ✓ 令和4年9月30日廃止



公共交通の課題解決に向けた  
1stステップ

# 新しい地域公共交通システム「のらざあ」

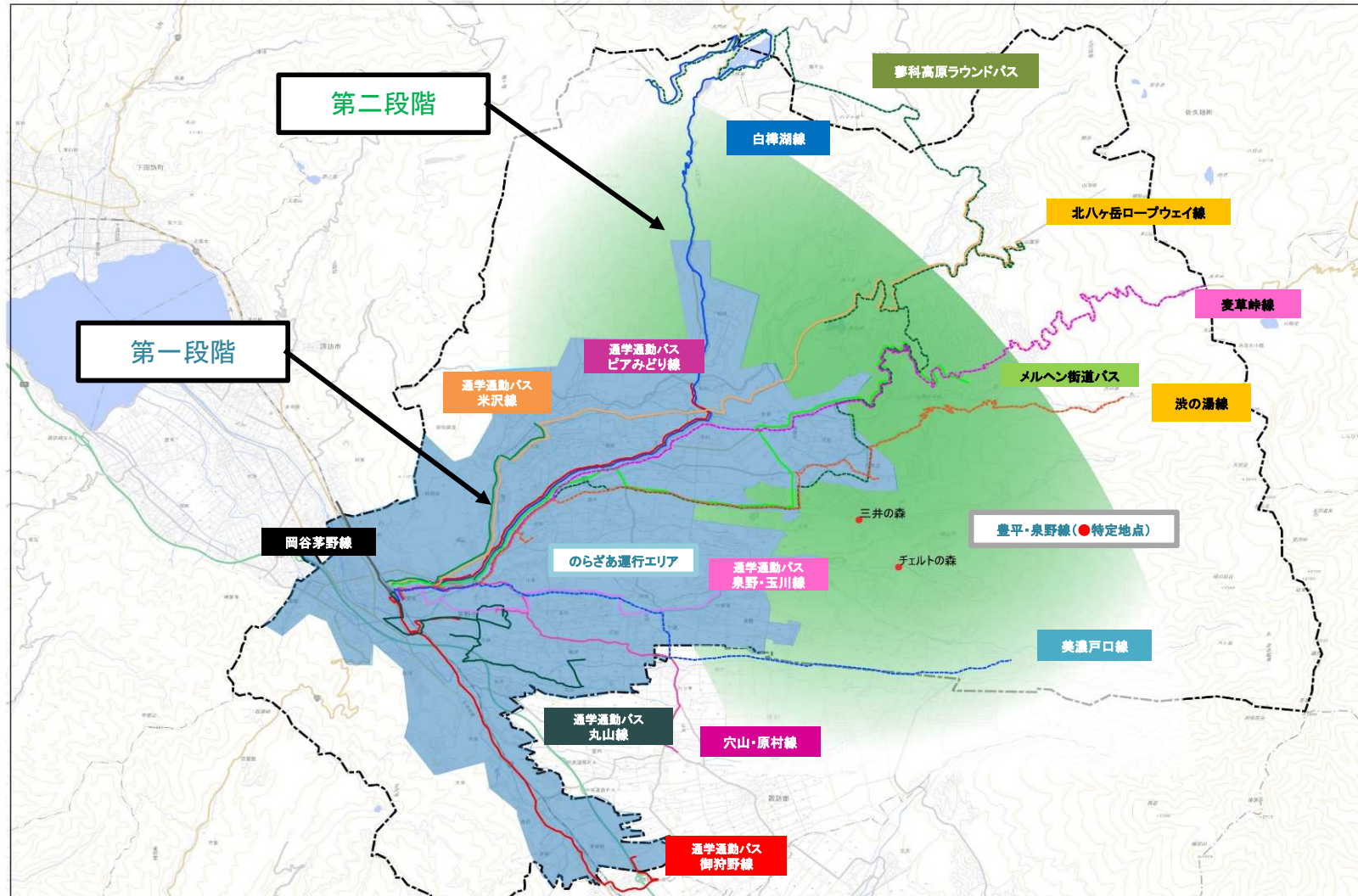
## 【のらざあとは】

- ✓ 路線バスに替わる新しい乗合交通サービス
  - ✓ 電話（コールセンター）やスマホアプリで配車予約
  - ✓ 多くの場所（約8,000ヶ所）から乗車可能（バス停は市内に約200ヶ所）
  - ✓ AI（人工知能）が最適ルートや配車を決定
- 運行開始日 令和4年8月22日（月）
- 車 両 コミューター2台、ハイエース5台、ノア1台（計8台）
- 運行エリア 現在のバス路線の運行エリア（観光路線は除く）
- 運行時間 8：00～19：00
- 運 賃 3キロ未満300円、5キロ未満500円、5キロ以上700円
- 予約方法 電話またはアプリで（事前予約は1週間前から）
- 運行事業者 地域の交通事業者4社

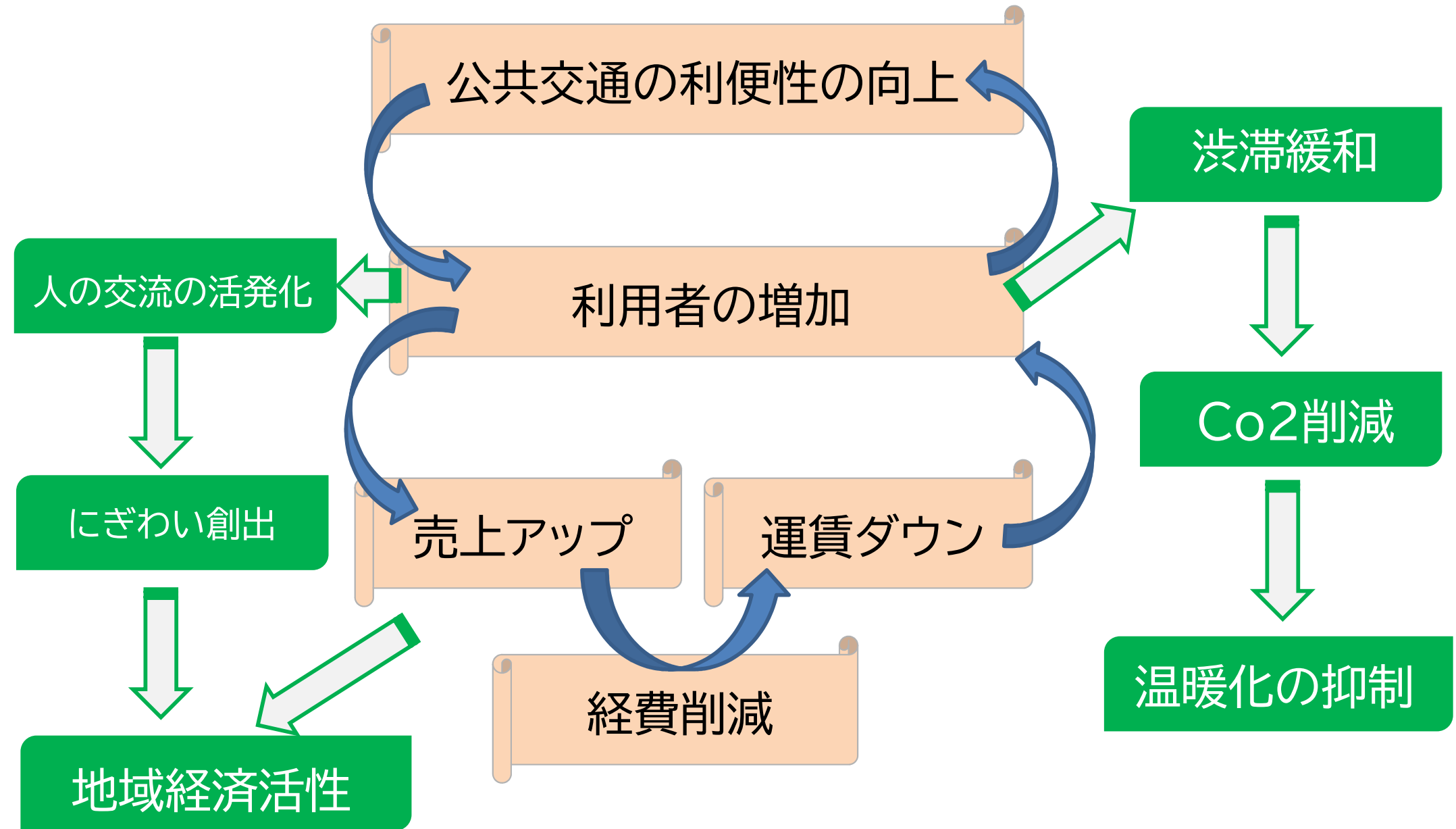
「のらざあ」とは？  
地域の方言で、乗ってみよう！  
☞ Let's Ride!



## 新しい地域公共交通網



# 新しい地域公共交通を通じた地域への貢献



# 都市構造可視化の取組について



茅野市都市建設部都市計画課

# これからのまちづくり

統計データ、VR、都市模型、3D都市モデル、あらゆるツールで都市を見る



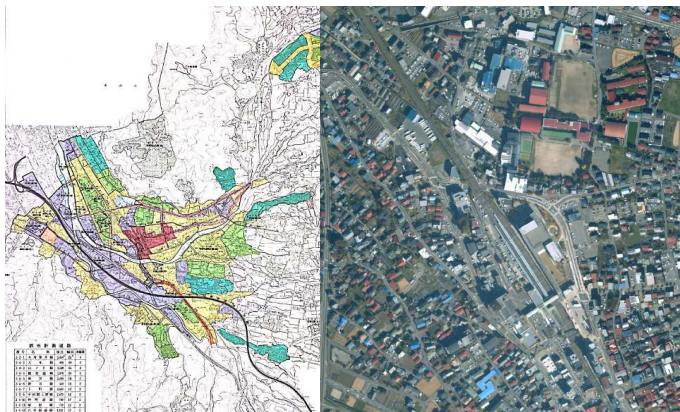
都市構造可視化サイトを用いた  
統計データの3次元化



CityGMLデータを用いたVR



既存のツール & 新たなツール



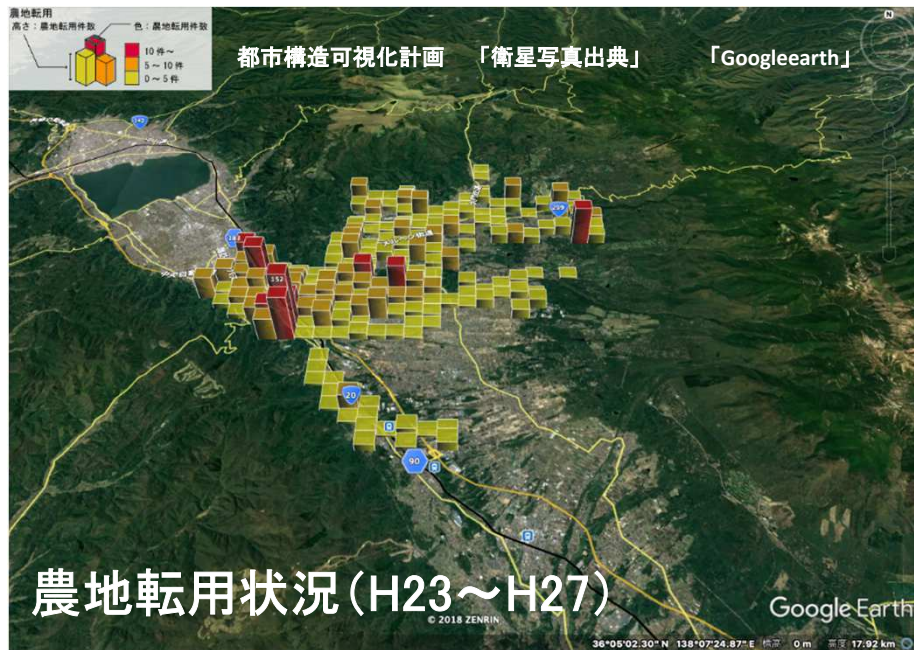
CityGMLデータを用いた3D都市モデル



CityGMLデータを用いた3D模型

## 統計データ、災害リスク、見えないものを見える化

### 統計データ(都市計画基礎調査)

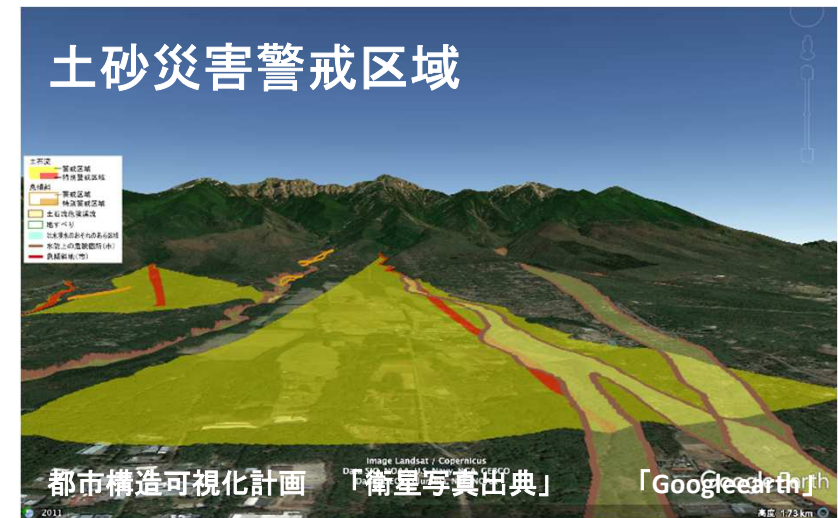


用途区域内 約17ha 用途区域外 約40ha  
建物利用状況と重ねることで、住宅用の転用であることが読み取れる

### 「i-都市再生」とは？

- ・まちづくりの計画や効果を3Dの地図によって「見える化」する情報基盤
- ・VR技術や地球地図、ビッグデータ等を活用し、都市再生についての空間的、数値的な理解が直感的に得られる、見える化情報基盤
- ・まちづくりの課題や効果、将来像を、地理情報やVR技術等を用いて住民や投資家等に対して分かりやすく示す都市再生の見える化情報基盤

### 災害リスク





# VR・都市模型を使ったまちづくり

上から、横から、あるもの、ないもの、いろいろな角度から見える化

まちなみをVRで再現！



VRで街路樹検討！！



都市模型でまちを俯瞰！  
いつもは見ない角度から

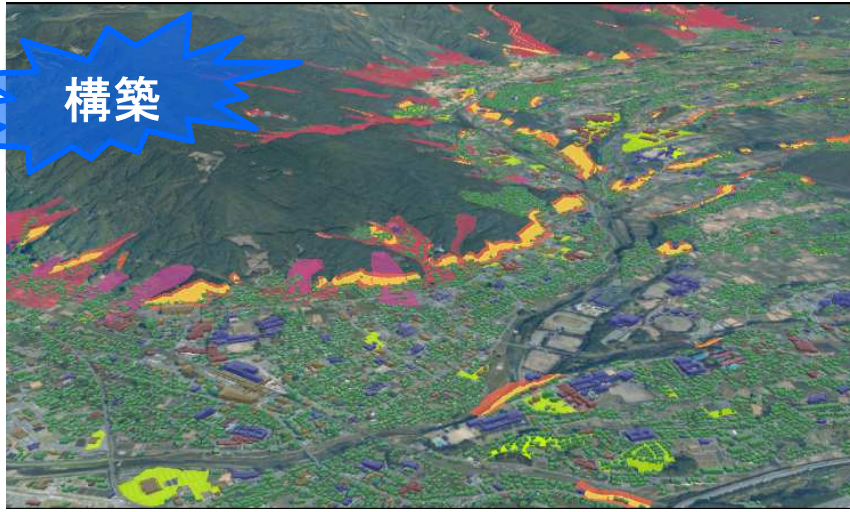


視点が変わると、いつもの会議が活発な意見交換の場に！  
地元住民への事業説明会・検討会議や公立諏訪東京理科大学  
の学生とのまちづくりワークショップなどで活用しています。

# 3D都市モデルを使ったまちづくり

## バーチャル空間で、都市をまるごと見える化

構築

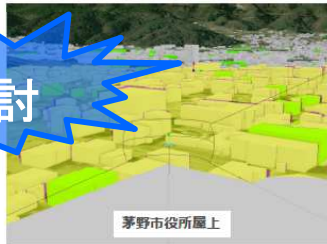


ある地点からの  
可視エリア・不可視エリアのシミュレーション

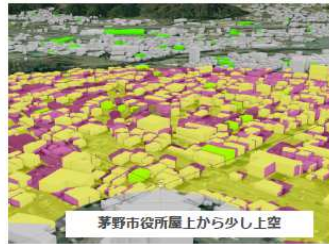
効果 反射光の影響把握に応用

検討

不可視  
エリア



茅野市役所屋上



茅野市役所屋上から少し上空

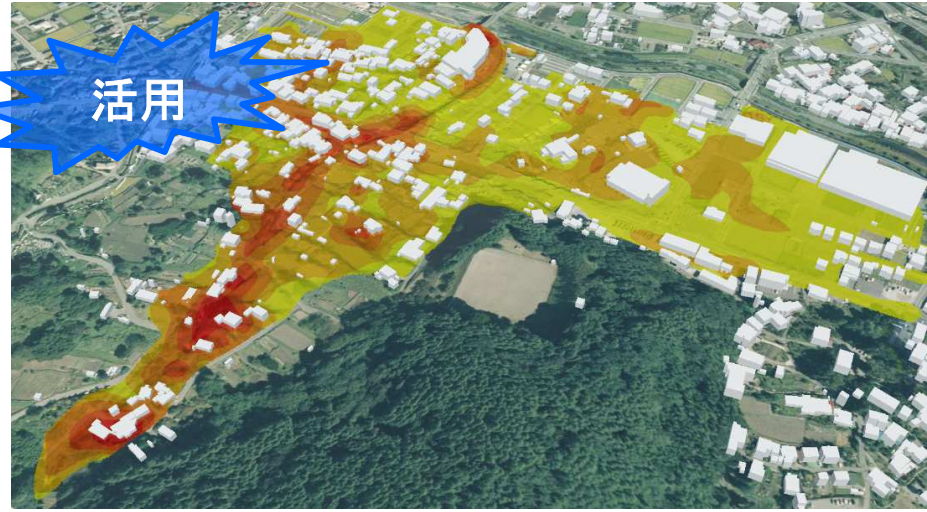
土砂災害警戒区域の可視化

効果 設置エリアの検討 住民へのリスク周知

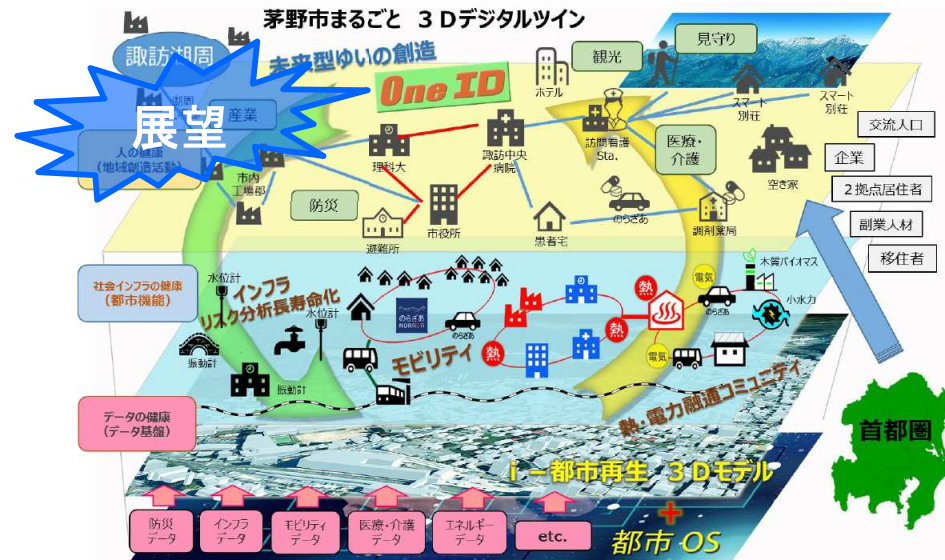
ソーラー  
パネル  
土砂災害  
警戒区域



活用



展望



国土交通省が主導するプロジェクト「PLATEAU」に参画し、3D都市モデルを整備

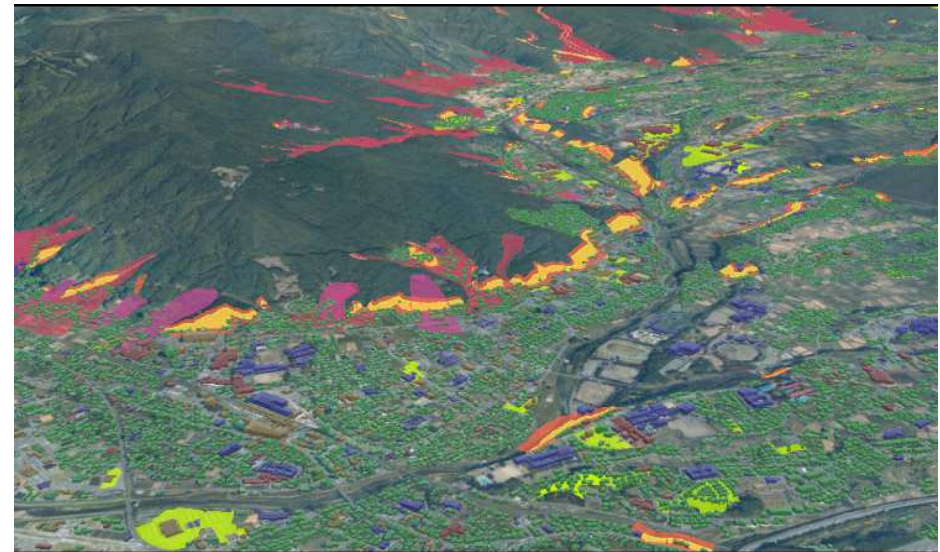
## 茅野市の3D都市モデル ユースケース

開発行為に関連する多様な情報を3D都市モデルに集約し可視化するプラットフォームを開発。デジタルソリューションによる官民の情報収集コスト低減を目指しました。

土地利用に関するあらゆる情報を集約することで、都市構造を俯瞰して把握したうえで申請の適合性を審査可能とします。

### 建物 × 災害リスク × 開発許可エリア

用途別に配色分けされた建物と災害ハザードエリアにより、都市の構造を直感的に把握。開発許可エリアを重畳することで、都市側の土地利用の方針決定や、事業者側の開発タネ地選定に寄与します。



出典: 国交省ホームページ(<https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/smart-planning/3-005/>)

## 「PLATEAU」とは？

PLATEAU は、国土交通省が進める 3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化 のリーディングプロジェクトである。都市活動のプラットフォームデータとして 3D都市モデルを整備し、そのユースケースを創出。さらにこれをオープンデータとして公開することで、誰もが自由に都市のデータを引き出し、活用できるようになる。

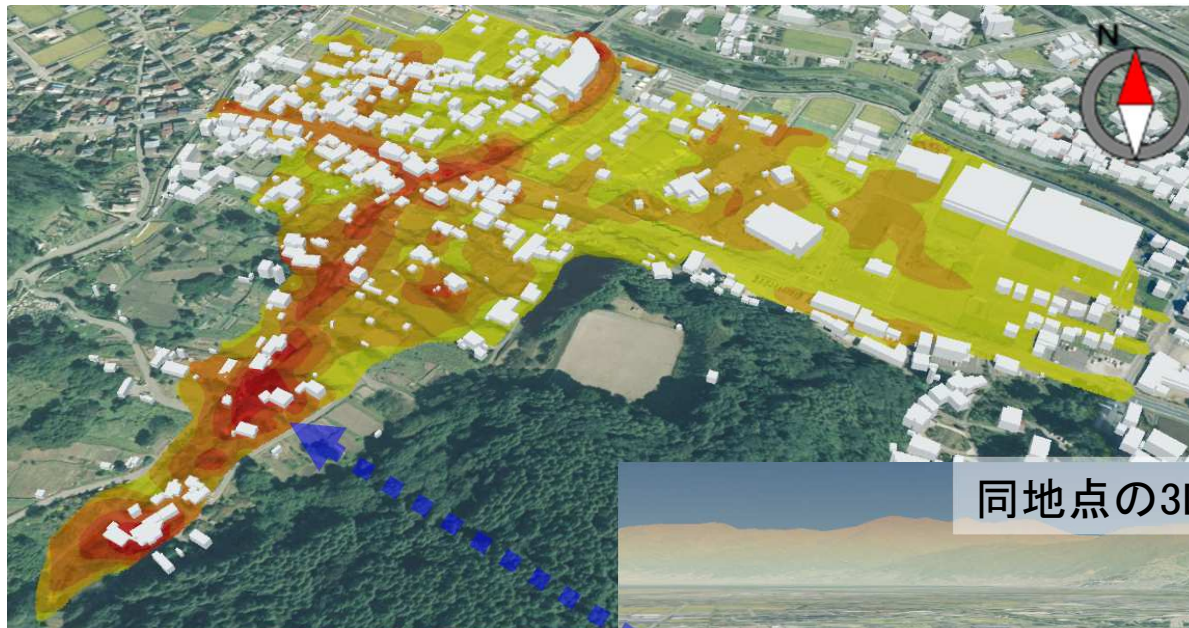
## 「3D都市モデル」とは？

3D都市モデルとは、国土交通省が Project PLATEAU の一環として整備する、実世界(フィジカル空間)の都市を仮想的な世界(サイバー空間)に再現した3次元の地理空間データである。3D都市モデルは、都市活動に係る様々なデータを結びつける基盤情報として機能し、これを通じて様々な知識や情報を共有できる。都市のデジタルトランスフォーメーションの実現、そして、革新的なソリューションを生み出す「デジタルツイン」と Society 5.0 を実現するためには、3D都市モデルは不可欠な要素技術の一つである。

# 3D都市モデルを使ったまちづくり

## 令和3年9月に発生した土砂災害の被害状況を可視化

### 3D都市モデルを利用した堆積土砂厚さの可視化



メッシュ法で得た情報をもとに  
堆積土砂の3Dモデルを構築し、  
堆積土砂厚さを表現しました。

※屋根形状は再現していない  
(建物はLOD1を使用)

堆積土砂厚さ：多 ⇒ 少  
表示色：赤 ⇒ 黄



## 公立諏訪東京理科大学の学生3名による活用研究

### 市が保有する都市データを研究に活用

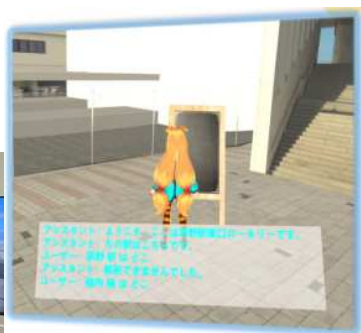
公立諏訪東京理科大学  
×  
茅野市

茅野市が都市構造可視化分野で取り組んできた  
☆茅野市全域の「3D都市モデル」  
☆JR茅野駅周辺の「VR」  
これらを活用した研究に取り組んでいただきました。

### 3D都市モデル × 災害リスク × 避難所



### VR × チャットボット



### VR × リアルタイムデータ



協力:工学部 情報応用工学科 三代沢研究室

## 一步先の未来を最適化するデータ連携都市・茅野



### 「データ連携都市・茅野」の3つの特徴

#### 1 支え合いの精神 未だ残る共助の精神

- 全国に先駆けた地域包括ケアシステムの取り組み～ 公民協働による挑戦 福祉21ピースプラン～
- ・ヘルスアップモデル事業（2002年～2004年） 厚生労働省
- ・地域における包括的モデル事業（2004年） 厚生労働省・国保中央会
- ・介護予防モデル事業（2004年） 厚生労働省

心

#### 2 3つの市民の存在 今後の経済施策を考えるための「課題先進都市」

- コワーキングスペースを活用した地域力向上まちづくり事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- 「信州リゾートテレワーク」事業（長野県モデル事業）
- 「（仮称）ちの観光まちづくり推進機構」（茅野版DMO）による地方再生モデル創造事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- JR茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流促進事業（内閣府交付金事業）

交流

#### 3 先端技術へのチャレンジの歴史 市民サイドに立った合理化、省力化への挑戦

- 産学公連携「スワリカブランド」創造事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- AIオンデマンド乗合タクシー「のらざあ」及びハブ＆スポークによる新しい公共交通システムの構築（国土交通省補助事業）
- 「I-都市再生」（内閣府、国土交通省モデル事業）
- 「Project PLATEAU」（国土交通省モデル事業）

テクノロジー

都市を構成するあらゆるデータを3D都市モデル上に集積。見える化を更に進めることで、都市機能の最適化を目指します

